

- 生物資源学科
- 生物環境システム学科
- 生命化学科

農学部は、より広い視野で農学を捉え、「資源・環境・生命」の3点を柱として生物資源学科、生物環境システム学科、生命化学科の3学科を設置する。教育・研究は、全人教育の伝統を活かし、実物教育、総合的・学際的視点、国際性、倫理観の4つの視点を重視する。これらを通じ、科学の基本である「何故？」という鋭い視点をもつ人材、問題を発見・解決する意欲と実行力のある人材の養成を目的とする。このために、基盤から基幹へ、さらに専攻へと発展させる体系的な教育プログラムを設けている。また、理科教員養成を目指す学科横断的のコースを設けている。

生物資源学科は、人類と環境の共存のために科学技術を正しく使える人材の養成を目指し、あらゆる生物を「資源」として捉え、有用形質・機能の開発に関する理論と技術を習得する。これらの生物機能を理解し、生物生産の効率化、未利用資源や生物の新機能の開発に関わる教育・研究を展開する。

生物環境システム学科は、持続的循環型社会の形成に貢献することを目指し、環境保全、生物の尊さを理解した人材、創造性・主体性・国際性を兼ね備えた人間性豊かな人材の養成を行う。最大の特色は、海外および国内の教育機関および本学の各施設を利用した独自カリキュラムにあり、生物と地球環境とのつながりを理解する。

生命化学科は、生命を「化学」の視点で捉えることを学科の基盤に据え、食糧生産、有用天然物質利用、健康、環境の分野で世界に貢献できる人材養成を目指す。そのために必要な科学的知識と科学的技術、および、それらを社会の中で正しく使用するための教育・研究を推進する。